



# 第39期 中間事業報告書

平成15年4月1日～平成15年9月30日



大成ラミック株式会社

証券コード 4994

当社は、液体・粘体包装フィルムと高速自動充填機の両方を手がける唯一のメーカーです。食品業界をはじめスーパーマーケット、コンビニエンスストア等さまざまな業種の包装ニーズに的確に応えて液体・粘体包装のパイオニアとして業績を伸ばしてきました。

経営資源を高付加価値製品に集中・特化させ、独自のシステムを構築することにより、トップブランドとしての地位を築いています。

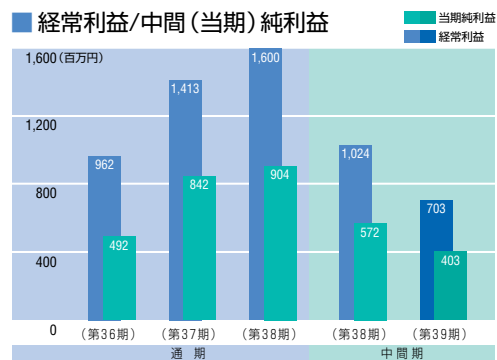
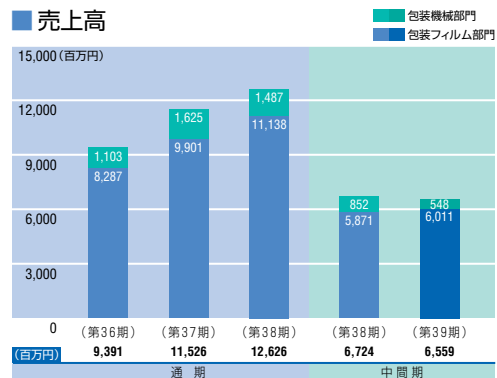
## 目次

プロフィール	1
決算ハイライト	1
社長からのメッセージ	2
特集：トップブランド大成ラミック	3
ひとめでわかる大成ラミック	5
ジャパンバック2003	6
トピックス	7
財務諸表	8
会社概要	11

**表紙の絵** 洋画家八十山和代（やそやまかずよ）氏は、故郷石川県と京都にアトリエを構え、洋画では珍しく竹をモチーフとした作品を描き続けています。東京、京都、ニューヨーク、中国、ブラジルなどで次々と個展を開催。サロン・ド・パリ正会員、竹文化振興協会会員など幅広く活躍中です。

(単位:百万円)

科目	第39期中間期 (平成15年4月1日～ 平成15年9月30日)	第38期 (平成14年4月1日～ 平成15年3月31日)	第38期中間期 (平成14年4月1日～ 平成14年9月30日)
売上高	6,559	12,626	6,724
営業利益	697	1,678	1,050
経常利益	703	1,600	1,024
中間(当期)純利益	403	904	572
一株当たり中間(当期)純利益(円)	64.07	149.31	99.59
一株当たり配当金(円)	25.00	50.00	20.00
株主資本利益率(ROE)(%)	4.71	13.61	9.94
総資本経常利益率(ROA)(%)	5.74	15.19	10.47



## 社長からのメッセージ



代表取締役社長 木村 登

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼を申し上げます。

この度、第39期中間事業報告書をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

### 当中間期の業績

当中間期におけるわが国経済は、デフレ経済の進行を背景に個人消費の低迷と民間設備投資の横這いが続き、期の後半は輸出と設備投資の持ち直しを足掛りに緩やかな底離れの局面を迎えていますが、雇用環境、所得環境、地方経済の不振など個人消費の冷え込みの長期化が依然として続いています。

当軟包装業界におきましても、食品・非食品ともに生産の横這い、単価の下落、採算の悪化を余儀なくされております。当社の主力得意先である食品業界も低価格化と10年振りの冷夏により消費低迷が続きました。

このような状況の下、当社は本年2月から本格稼働した本社新工場第一期増産ラインによりフィルムの

外注部分の内製化をし、より一層の品質向上、衛生・安全管理・品質保証体制強化を進め、少ロット・短納期生産方式で積極的に営業の深耕・受注の拡大を図りましたが、記録的な長梅雨・冷夏の影響により売上、利益とも伸び悩みました。

その結果、売上高は65億59百万円（前年同期比2.5%減）となり、経常利益は7億3百万円（同31.3%減）、中間純利益は4億3百万円（同29.5%減）となりました。

### 今後の経営戦略

当社が主力とする食品業界においては、少子・高齢化社会の到来とともに、内食・中食・外食と食機会の多様化が進み、食品の安全・安心・健康はもとより、利便性、低価格にこだわる消費志向が一層顕著となりつつあります。

このような状況のなか、包装フィルム部門では、少ロット・短納期を一層推進していくことで、ユーザーの在庫極少化への貢献を図り、更に本社新工場の第二期増産ライン以降の早期完成とフル稼働の確保を目指してまいります。

一方、包装機械部門では新商品である「NT-DANGAN Type L」をはじめ、「ノンテープ・ジョイント」、「自動フィルム繋ぎ装置」、「新型熱交換装置」等の当社独自の戦略アプリケーションとともに高速液体自動充填機「NT-DANGAN」の更なる市場への浸透・深耕を図ってまいります。

株主の皆さまにおかれましては、なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成15年12月

代表取締役社長

木村 登

# トップブランド大成ラミック

## <数字でわかる優位性>

「液体包装の大成ラミック」を目指し、業界のトップブランドとして躍進を続ける大成ラミック。その優位性を数字でご紹介します。

## ●業界売上高 No.1

液体包装へ集中特化する戦略のもとに、液体包装フィルムと包装機械をともに販売する唯一の企業が大成ラミックです。ユーザーである食品メーカーに、高速液体自動充填機「NT-DANGAN」を販売することを契機に、液体・粘体自動充填用フィルム「XAシリーズ」も併せて販売するというシナジー効果の高いビジネスモデルにより、いまや業界トップの売上高を誇っています。トップブランドのスケールメリットも味方し、大成ラミックの競争優位性はますます高まっています。

食品液体小袋包装フィルム市場  
市場シェア (2002年度)



出所:包装資材シェア事典



本社新工場

## ●市場シェア 30%

包装資材全体の市場規模は国内6兆円、うち軟包装資材の市場規模は7,600億円、大成ラミックが注力する液体包装フィルムの市場規模は250億円と推定されています。この液体包装フィルム市場における当社のシェアは2002年度で30%前後と推定され、業界のリーディングカンパニーとなっています。

液体包装フィルムは、典型的な多品種少量生産の商品であり、全国各地からの様々な少ロット受注に低コスト・短納期で応える当社の生産技術は圧倒的な信頼を獲得。更に2003年2月には全工程一貫製造システムによる新工場が完成、更なる短納期の要請に応えながら一層のシェア拡大を図っています。

## ●商品数 **10000** アイテム

即席めんスープ・冷凍めんスープ・わさび・納豆たれ・コンビニめんつゆ・調味たれ・マヨネーズ・ドレッシング・マスタード・しょうゆ・ソース・調味みそ…。人々の食生活に欠かせない膨大な種類の食品や調味料が、当社のフィルムにより充填されています。更に色・デザイン・サイズ、機能性、フィルム構成により商品アイテムは多彩な広がりを見せています。

食品分野以外にも、トイレタリー、コスメティック、医薬部外品などに事業領域を拡大。いまや、受注・生産する商品数は年間10000アイテムを超えており、更に拡大を続けています。



さまざまな色・サイズの商品群

## ●顧客数 **600**社以上

液体包装フィルムは、容器の軽量化に応える包装パッケージとして環境へのやさしさが評価され、使用される領域を拡大しています。今後も、コンビニエンスストア、弁当、惣菜向けを中心に、年5%程度の安定した市場成長が見込まれています。

なかでも、レトルト食品やトイレタリー製品の詰め替え用パックなど、中・大袋の需要が増加しており、当社では、中・大袋化対応の包装フィルムや充填機の販売を強化するなど、多様化するニーズに対応しています。顧客数は、全国の食品メーカーを中心に600社を超えるまでに広がっており、今後も、消費者ニーズの多様化・個食化を支える高品質、高生産性を追求しながら、顧客拡大を続けてまいります。



用途が拡大する包装フィルム

# ひとめでわかる大成ラミック

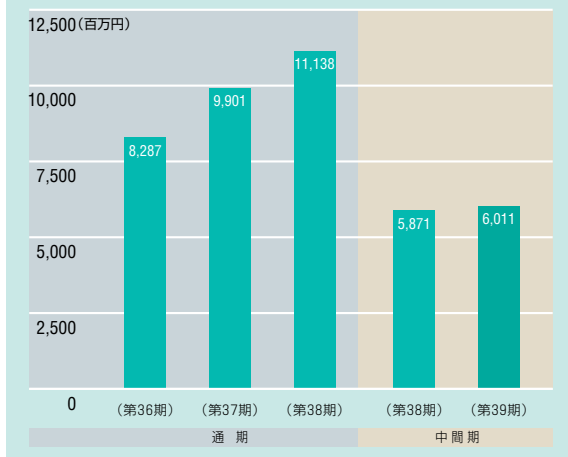
## ■包装フィルム部門

【事業内容】主に即席麺やお持ち帰り弁当などに別添調味料として付いてくる液体スープ、醤油、ソース、納豆のたれ、わさび・からし、ドレッシング等を入れるラミネートフィルムやレトルト食品用パウチ、トイレタリー、コスメティック関連製品の詰替用パックなどの開発・製造・販売を行っています。

当社がメインとする食品業界は、全般的な消費不振、春先からの天候不順、長梅雨・冷夏による影響により、行楽用のお弁当、冷し中華・そばつゆ等の夏物季節商品が不振の状況でした。一方で低温下でもその影響を受けにくい業種もあり納豆、マヨネーズ、ドレッシング、ラーメン関連のフィルムの受注を深耕し、おでんつゆ・鍋スープ等の冷夏代替商品向けフィルムの受注に注力しました。

その結果、売上高は60億11百万円（前年同期比24%増）となりました。

■包装フィルム部門売上高推移



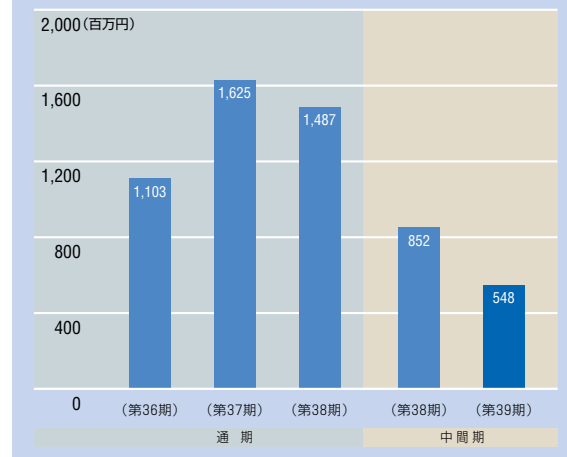
## ■包装機械部門

【事業内容】当社と日本精機(株)が共同開発した高速液体自動充填機を、液体・粘体自動充填フィルムとともに食品メーカー向けなどに販売を行っています。充填速度の高速化と安定化を重視した自動充填機は、「NT-DANGAN」シリーズとして「からしや納豆たれ等の少量パック専用の5・10分割機」「ストレートつゆや業務用パック等の大容量専用機」などの開発・販売を行っています。

「NT-DANGAN」につきましては、食品業界における先行き需要見通しの不透明感並びに食の安全・衛生面の設備投資優先の下、増産向け設備投資には慎重な判断が多く商談・計画の延期になったものもあり、販売台数は低迷しました。

その結果、売上高は5億48百万円（前年同期比35.7%減）となりました。

■包装機械部門売上高推移



# 「ジャパンパック2003」 新機種「NT-DANGAN Type L」などを展示

当社は、10月21日から25日まで東京・有明の東京ビッグサイトで開催された「2003 日本国際包装機械展（ジャパンパック2003）」に今年も出展し、当社が誇る充填機械の最新機種やフィルムの新製品などをたくさんの来場者にご覧いただきました。

充填工程の実演コーナーでは、今年の出展の目玉である充填容量0.5～2リットルの業務用大袋対応の新機種「NT-DANGAN Type L」と、その大袋に対応したType L用の「XA-HD」が来場者の注目を集めました。また、一体型でコンパクト化を実現した「新型オートスプライス装置」や、食品会社への採用が本格化している「ノンテープジョイント」など、充実したラインアップを揃え、来場者に当社製品の品質や性能の高さをアピールすることができました。



高速液体自動充填機  
「NT-DANGAN Type L」(大袋仕様)



ジャパンパック2003会場



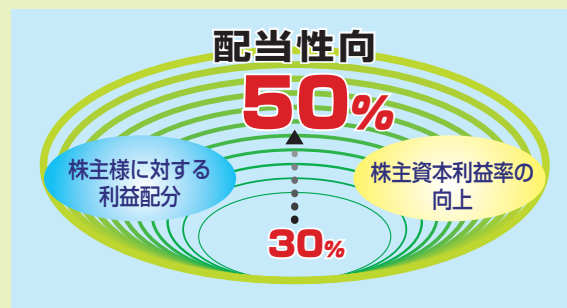
多彩な商品を展示

## TOPICS 1

## ● 中間配当を5円増額し、1株につき25円の配当を実施

当社は、株主様に対する利益配分と株主資本利益率の向上を経営の重要政策の一つと位置付け、積極的に株主の皆様への利益還元を行う方針であります。

つきましては、配当性向を前期まで30%を目安に実施しておりましたが、今期より50%に引き上げ、これに伴い中間配当を前期までの1株につき20円から5円増額し、25円の配当を実施することといたします。また、期末予想配当につきましては、1株につき35円とする予定です。尚、株主優待は年2回、今回は12月上旬にお届けします。



## TOPICS 2

## ● 「NT-DANGAN」が日食優秀食品機械資材賞を受賞



日本食糧新聞社が主催する「日食優秀食品機械資材賞」に、当社と日本精機(株)が共同開発した高速液体自動充填機「NT-DANGAN TypeⅢ」が機械部門で選ばれました。

平成10年に創設された同賞は、食品業界の発展や活性化に貢献した食品機械・資材会社に対して毎年贈られるもので、今年で6回目。今回は機械部門と資材部門でそれぞれ6部門の計12製品が受賞しました。9月11日に東京・新橋の第一ホテル東京で多数の来賓を集めて開催された贈呈式には、当社から木村社長らが出席しました。

# 財務諸表

(非連結)

## 貸借対照表

(単位:百万円)

科目	第39期中間期 (平成15年 9月30日現在)	第38期 (平成15年 3月31日現在)	第38期中間期 (平成14年 9月30日現在)
<b>●資産の部</b>			
流動資産	<b>7,257</b>	7,606	6,773
現金及び預金	<b>1,684</b>	2,713	1,727
受取手形	<b>1,634</b>	1,187	1,558
売掛金	<b>2,433</b>	2,337	2,303
たな卸資産	<b>1,338</b>	1,199	1,025
その他	<b>170</b>	173	164
貸倒引当金	<b>△ 3</b>	△ 4	△ 5
固定資産	<b>4,793</b>	4,833	4,169
有形固定資産	<b>4,189</b>	4,254	3,592
建物	<b>2,215</b>	2,271	898
機械及び装置	<b>733</b>	761	579
土地	<b>839</b>	835	844
その他	<b>399</b>	386	1,270
無形固定資産	<b>126</b>	130	124
投資その他の資産	<b>478</b>	447	452
投資有価証券	<b>288</b>	238	236
その他	<b>202</b>	226	233
貸倒引当金	<b>△ 12</b>	△ 17	△ 16
資産合計	<b>12,051</b>	12,440	10,942

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

### ■ 資産

総資産は、前期末に比べ3億88百万円減少し120億51百万円となりました。これは主に本社新工場の設備投資等の支出により現金及び預金が減少したことが主な要因です。

科目	第39期中間期 (平成15年 9月30日現在)	第38期 (平成15年 3月31日現在)	第38期中間期 (平成14年 9月30日現在)
<b>●負債の部</b>			
流動負債	<b>3,228</b>	3,836	4,046
買掛金	<b>2,296</b>	2,107	2,021
一年内返済予定長期借入金	<b>—</b>	—	70
未払金	<b>386</b>	1,218	1,249
未払法人税等	<b>313</b>	352	457
賞与引当金	<b>154</b>	145	147
その他	<b>77</b>	12	101
固定負債	<b>151</b>	153	220
長期借入金	<b>—</b>	—	67
退職給付引当金	<b>94</b>	97	98
役員退職慰労引当金	<b>56</b>	55	53
負債合計	<b>3,380</b>	3,989	4,267
<b>●資本の部</b>			
資本金	<b>2,408</b>	2,408	1,629
資本剰余金	<b>2,896</b>	2,896	2,117
利益剰余金	<b>3,341</b>	3,149	2,933
その他有価証券評価差額金	<b>24</b>	△ 3	△ 4
資本合計	<b>8,670</b>	8,450	6,675
負債及び資本合計	<b>12,051</b>	12,440	10,942

### ■ 負債 / 株主資本

負債合計は、本社新工場の設備投資等の支払により未払金が減少したため、前期末に比べ6億9百万円減少しました。一方、株主資本は2億20百万円増加し、その結果、当期末の株主資本比率は前期末に比べ4.0ポイント上昇し71.9%となりました。

# 財務諸表

(非連結)

## 損益計算書

(単位:百万円)

科目	第39期中間期 (平成15年4月1日～ 平成15年9月30日)	第38期 (平成14年4月1日～ 平成15年3月31日)	第38期中間期 (平成14年4月1日～ 平成14年9月30日)
売上高	<b>6,559</b>	12,626	6,724
売上原価	<b>4,936</b>	9,203	4,798
売上総利益	<b>1,622</b>	3,422	1,925
販売費及び一般管理費	<b>925</b>	1,744	874
営業利益	<b>697</b>	1,678	1,050
営業外収益	<b>14</b>	16	9
営業外費用	<b>8</b>	94	36
経常利益	<b>703</b>	1,600	1,024
特別利益	<b>3</b>	33	0
特別損失	<b>1</b>	66	24
税引前中間(当期)純利益	<b>705</b>	1,567	1,000
法人税、住民税及び事業税	<b>315</b>	692	457
法人税等調整額	<b>△13</b>	△29	△29
中間(当期)純利益	<b>403</b>	904	572

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 売上高の内訳

(単位:百万円)

科目	第39期中間期 (平成15年4月1日～ 平成15年9月30日)	第38期 (平成14年4月1日～ 平成15年3月31日)	第38期中間期 (平成14年4月1日～ 平成14年9月30日)
包装フィルム部門	<b>6,011</b>	11,138	5,871
包装機械部門	<b>548</b>	1,487	852
販売台数(台)	<b>20</b>	58	34
売上高	<b>6,559</b>	12,626	6,724

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 収益状況

当中間期の売上高は、包装フィルム部門の売上が好調に推移した一方、包装機械部門の売上が減少したため、前年同期比2.5%減の65億59百万円となりました。売上高総利益率は、売上減少により同3.9ポイント低下し24.7%となりました。

販売費及び一般管理費は、同5.7%増の9億25百万円となりました。営業利益は6億97百万円(同33.6%減)となり、売上高営業利益率は同5.0ポイント低下し10.6%となりました。営業外収益は新株発行費を計上した前年同期に比べ改善しましたが、経常利益は、7億3百万円(同31.3%減)、中間純利益は、4億3百万円(同29.5%減)となりました。

## 利益処分

当社は、利益配分と株主資本利益率の向上を経営の重要政策の一つとして位置付けており、積極的に株主の皆さまへ利益還元を行う方針です。つきましては、配当性向を前期まで30%を目標にしていたましたが、当期より50%に引き上げ、これを維持、継続するよう努めます。

内部留保金につきましては、今後の競争力強化のため、受注高および販売動向による中長期観点からの設備投資に充当し、事業規模拡大のため有効に活用していく方針です。

# 財務諸表

(非連結)

## キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	第39期中間期 (平成15年4月1日～ 平成15年9月30日)	第38期 (平成14年4月1日～ 平成15年3月31日)	第38期中間期 (平成14年4月1日～ 平成14年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	130	1,281	641
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 565	△ 2,424	△ 488
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 188	1,982	706
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—	—
現金及び現金同等物の増加(△減少)額	△ 623	839	859
現金及び現金同等物の期首残高	1,388	548	548
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	764	1,388	1,407

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 通期の見通し

(単位:百万円)

科目	第39期予想 (平成15年4月1日～ 平成16年3月31日)
売上高	13,001
包装フィルム部門	11,801
包装機械部門	1,200
営業利益	1,300
経常利益	1,300
当期純利益	747
一株当たり当期純利益(円)	118.57
一株当たり配当金(円)	60.00
	※うち中間25.00円

注1：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

注2：上記の予想は、第39期中間決算発表日時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、さまざまな要因の変化により実際の業績は、これらの予想数値と異なる可能性があります。

## ■ キャッシュ・フロー計算書

当中間期における現金及び現金同等物の期末残高は7億64百万円となり、前年同期末より6億42百万円減少しました。

投資活動における本社新工場の建物・設備投資等の支出9億73百万円が主な減少要因です。

## ■ 通期の見通し

今後の経済見通しは、輸出環境等の一部改善の兆しも見えますが、雇用、所得、個人消費のデフレ化は依然続くものと思われま

す。このような状況の中、当社は、液体・粘体自動充填フィルム「XAシリーズ」の新製品「XA-HD」、高速自動充填機「NT-DANGAN」の新製品「Type L」の開発をしました。「XA-HD」フィルムは付加価値が高く且つ汎用性が広く、更に「Type L」ともベストマッチングする今後の戦略商品となる新製品です。

フィルムにつきましては、「XAシリーズ」の食品業界への更なる深耕に加えて、高付加価値フィルム「XA-HD」の拡販、新販路としてトイレタリー・健康食品分野の売上の拡大をしております。充填機につきましては従来の充填機に比較して3倍から5倍の高速性を持ち、0.5リットルから最大2リットル充填可能な大袋用高速自動充填機「NT-DANGAN Type L」を業務用大袋ルートや外食企業のセントラルキッチン向けの新規開拓のスピードを上げてまいります。

通期の業績見通しにつきましては、売上高130億1百万円(前年同期比3.0%増)、経常利益13億円(同18.8%減)、当期純利益7億47百万円(同17.4%減)を見込んでおります。

# 会社概要

**会社概要** (平成15年9月30日現在)

**社名** 大成ラミック株式会社 (Taisei Lamick Co.,Ltd.)  
**所在地** 埼玉県南埼玉郡白岡町下大崎873番1 〒349-0293  
**代表者** 取締役社長 木村 登  
**設立** 昭和41年3月22日  
**資本金** 24億860万円  
**事業内容** プラスチックフィルムを中心とした液体・粘体自動充填用フィルム「XA」シリーズ等の開発製造販売  
 高速液体自動充填機「NT-DANGAN」、周辺機器の開発販売

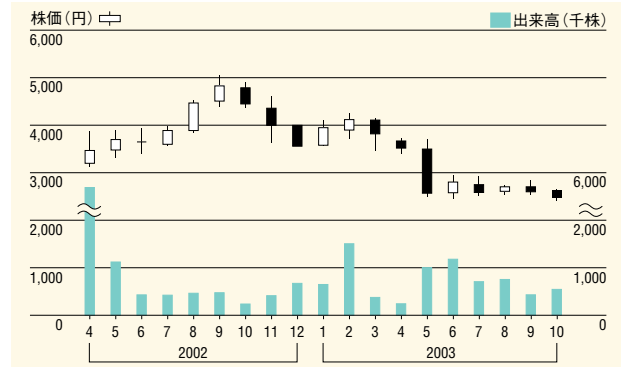
**社員数** 267名(男子231名 女子36名)ほか臨時従業員64名  
**主な事業所** 本社・工場 (埼玉県南埼玉郡白岡町)  
**営業所** 東北、仙台、名古屋、福岡

## 株主メモ

**決算期** 3月31日  
**定時株主総会** 毎年6月  
**利益配当金** 利益配当金 毎年3月31日  
**受領株主確定日** 中間配当金 毎年9月30日  
**1単元の株式数** 100株  
**名義書換代理人** 大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
 住友信託銀行株式会社  
**同事務取扱場所** 東京都千代田区丸の内一丁目4番4号  
 住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10  
 住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 (住所変更等用紙のご請求) ☎0120-175-417  
 (その他のご照会) ☎0120-176-417

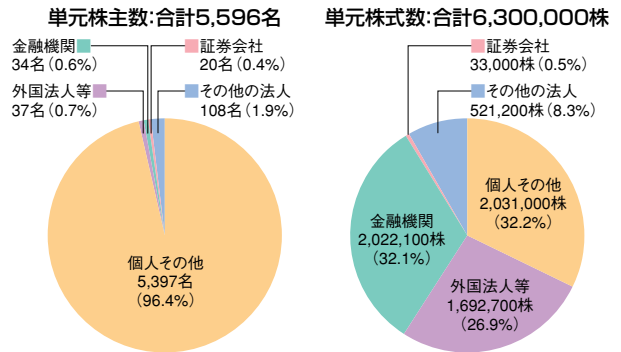
**同取次所** 住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店  
**公告の方法** 日本経済新聞に掲載いたします。ただし、商法特例法第16条第3項に定める貸借対照表及び損益計算書に係る情報は、  
<http://www.lamick.co.jp/kessan/index.html>  
 において提供いたします。

## 株価/出来高の推移



## 所有者別株式分布状況 (平成15年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数 20,000,000株  
 発行済株式総数 6,300,000株  
 株主数 5,596名



商標の由来

日本民族最古の包装資材は、主として竹の皮が用いられていました。言い換えれば、我が国包装文化の原点であります。竹の子は長じて竹になり、成竹は強靱性・柔軟性に最も優れた当社の主力商品である各種ラミネート製品に求められる強靱且つ柔軟性を併せもつ条件に適合するものであります。

**お問い合わせ** 総務部 IR担当: TEL 0480-97-0224 FAX 0480-97-0204  
**ホームページ** <http://www.lamick.co.jp/>

本報告書は、100%再生紙を使用しています。